



2022年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年7月30日

上場会社名 佐藤食品工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2814 URL <http://www.sato-foods.co.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清水 邦雄
 問合せ先責任者(役職名) 管理部長 (氏名) 那須 智 (TEL) 0568-77-7316
 四半期報告書提出予定日 2021年8月6日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第1四半期の業績(2021年4月1日~2021年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	1,324	—	205	48.9	259	40.7	173	38.6
2021年3月期第1四半期	1,387	△16.2	138	△44.7	184	△40.9	125	△41.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第1四半期	27.73	27.56
2021年3月期第1四半期	20.01	19.90

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しております。この影響により、売上高については当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第1四半期	19,810	18,296	92.2
2021年3月期	20,051	18,381	91.5

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 18,259百万円 2021年3月期 18,345百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
2022年3月期	—	—	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	15.00	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,670	—	210	46.6	266	33.1	210	—	33.71
通期	5,460	—	521	△25.2	609	△23.1	494	69.1	79.02

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しております。この影響により、売上高については当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前期及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料7ページ「(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料7ページ「(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2022年3月期1Q	9,326,460株	2021年3月期	9,326,460株
2022年3月期1Q	3,066,732株	2021年3月期	3,066,622株
2022年3月期1Q	6,259,808株	2021年3月期1Q	6,259,838株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報)	7
3. その他	8
生産、受注及び販売の状況	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しております。以下の経営成績に関する説明の品目別の増減については、前第1四半期累計期間の売上高に当該会計基準等を適用したと仮定して分析しております。なお、当該会計基準等の適用が前第1四半期累計期間の営業利益、経常利益及び四半期純利益に与える影響はありません。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症(以下、「本感染症」といいます。)の感染拡大により、3度目となる緊急事態宣言が発出されるなど社会経済活動への制限が長期化した結果、個人消費や企業業績が低迷し、引き続き厳しい状況で推移しました。国内では本感染症のワクチン接種が始まったものの、ワクチン供給の遅れや、変異株による感染拡大から、感染収束時期を見通すことが出来ず、依然として先行き不透明な状況が続いております。海外経済につきましても、本感染症のワクチン接種率が高い一部の国においては、本感染症感染拡大に対する制限の緩和など経済活動再開の動きが見られるものの、ワクチン接種率の停滞や変異株による感染拡大など、感染収束の見通しが立たず、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社といたしましては、顧客、取引先及び従業員の安全確保を最優先に、本感染症における主なリスクとして製造従事者の感染に伴う一時的な操業停止による製造への影響を挙げ、リスク低減対策として、食事場所や休憩室等のエリア分け、マスク着用や手洗い消毒の徹底や、Web会議システム等を活用した営業活動を推進し、出張を伴う営業活動や来客対応を抑制するなど、感染状況に応じた感染防止対策を講じることで、事業活動を継続してまいりました。

このような状況のもと、当社の当第1四半期累計期間における売上実績は、前年同四半期累計期間における売上の落ち込みから緩やかな回復基調で推移いたしました。

茶エキスにつきましては、ほうじ茶エキス・紅茶エキス等が減少したものの、麦茶エキス・緑茶エキス等が増加したため、売上高は527百万円となりました。

粉末天然調味料につきましては、粉末ソース等が減少したものの、粉末鰹節等が増加したため、売上高は432百万円となりました。

植物エキスにつきましては、野菜エキスが減少したものの、果実エキス等が増加したため、売上高は165百万円となりました。

液体天然調味料につきましては、椎茸エキスが減少したものの、昆布エキス・鰹節エキス等が増加したため、売上高は170百万円となりました。

粉末酒につきましては、ラムタイプ等が増加したため、売上高は28百万円となりました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は1,324百万円となりました。

利益面につきましては、売上原価の減少により営業利益は205百万円(対前年同四半期比48.9%増)、受取配当金51百万円(同12.4%増)を計上したため、経常利益は259百万円(同40.7%増)となりました。また、法人税等45百万円(同15.9%減)を計上したため、四半期純利益は173百万円(同38.6%増)となりました。

なお、当社は食品加工事業の単一セグメントであるため、セグメント情報は記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における資産合計は19,810百万円となり、前事業年度末に比べ240百万円減少しました。

流動資産については11,402百万円となり、前事業年度末に比べ5百万円増加しました。主に、売上債権が117百万円減少したものの、棚卸資産が158百万円増加したことによります。

固定資産については8,407百万円となり、前事業年度末に比べ246百万円減少しました。主に、投資有価証券が269百万円減少したことによります。

負債合計は1,514百万円となり、前事業年度末に比べ154百万円減少しました。

流動負債については1,444百万円となり、前事業年度末に比べ152百万円減少しました。主に、未払法人税等が86百万円、未払金が61百万円、それぞれ減少したことによります。

固定負債については70百万円となり、前事業年度末に比べ2百万円減少しました。これは、役員退職慰労引当金が2百万円減少したことによります。

純資産合計は18,296百万円となり、前事業年度末に比べ85百万円減少しました。主に、四半期純利益173百万円を計上したものの、その他有価証券評価差額金が165百万円減少し、配当金の支出により93百万円減少したことによります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症の長期化による影響等、依然として先行き不透明な状況が続くと予想されますが、2022年3月期の業績予想につきましては、現時点において2021年5月14日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

なお、実際の業績はさまざまな要因により大きく異なる可能性があるため、今後、業績予想の修正が生じる場合は、速やかにお知らせ致します。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,747,349	8,673,645
受取手形及び売掛金	1,265,321	1,147,401
製品	634,879	736,094
仕掛品	373,911	417,996
原材料及び貯蔵品	339,523	352,294
その他	35,987	75,442
流動資産合計	11,396,973	11,402,873
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,535,531	1,515,172
機械及び装置(純額)	761,766	739,341
土地	2,558,304	2,558,304
建設仮勘定	5,710	2,057
その他(純額)	117,028	111,937
有形固定資産合計	4,978,341	4,926,813
無形固定資産	50,440	47,807
投資その他の資産		
投資有価証券	3,294,466	3,025,428
破産更生債権等	1,408,482	1,408,380
繰延税金資産	62,466	130,650
その他	268,474	277,272
貸倒引当金	△1,408,482	△1,408,380
投資その他の資産合計	3,625,408	3,433,351
固定資産合計	8,654,190	8,407,972
資産合計	20,051,164	19,810,845

(単位:千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2021年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	386,854	375,266
短期借入金	670,000	670,000
未払金	161,352	99,543
未払法人税等	148,329	62,123
賞与引当金	113,000	60,603
その他	116,896	176,605
流動負債合計	1,596,433	1,444,142
固定負債		
役員退職慰労引当金	17,130	14,580
資産除去債務	55,649	55,649
固定負債合計	72,779	70,229
負債合計	1,669,212	1,514,371
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,672,275	3,672,275
資本剰余金	4,440,440	4,440,440
利益剰余金	12,737,347	12,817,063
自己株式	△3,414,602	△3,414,776
株主資本合計	17,435,460	17,515,002
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	910,016	744,996
評価・換算差額等合計	910,016	744,996
新株予約権	36,474	36,474
純資産合計	18,381,951	18,296,474
負債純資産合計	20,051,164	19,810,845

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)
売上高	1,387,652	1,324,870
売上原価	1,041,148	904,986
売上総利益	346,504	419,884
販売費及び一般管理費	208,187	213,921
営業利益	138,317	205,962
営業外収益		
受取利息	269	235
有価証券利息	98	98
受取配当金	45,579	51,233
貸倒引当金戻入額	21	102
その他	989	2,723
営業外収益合計	46,958	54,392
営業外費用		
支払利息	935	931
その他	1	0
営業外費用合計	936	931
経常利益	184,338	259,423
特別損失		
損害賠償金	440	—
固定資産除却損	4,032	435
投資有価証券評価損	—	39,445
特別損失合計	4,472	39,881
税引前四半期純利益	179,865	219,541
法人税等	54,624	45,928
四半期純利益	125,241	173,613

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には法定実効税率を使用しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、得意先から原材料を仕入、加工を行った上で加工費等を仕入価格に上乗せして加工品を当該得意先に対して販売する取引(以下「有償支給取引」という。)について、従来は有償支給取引に係る売上高と原材料仕入高(四半期財務諸表上は「売上原価」に含まれます。)を総額表示しておりましたが、当第1四半期会計期間より、有償支給取引に係る売上高と原材料仕入高とを相殺し、売上高に純額表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当第1四半期会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高及び売上原価が123百万円減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

前事業年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報)

当社は、食品加工事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

3. その他

生産、受注及び販売の状況

2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用したため、下記の生産高及び販売高は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前年同四半期比の増減率は記載していません。

①生産実績

当第1四半期累計期間における生産実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
茶エキス	655,112	—
粉末天然調味料	443,850	—
植物エキス	177,931	—
液体天然調味料	158,582	—
粉末酒	24,794	—
合計	1,460,271	—

(注)金額は、販売価格によっております。

②受注実績

当社は、見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

③販売実績

当第1四半期累計期間における販売実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
茶エキス	527,184	—
粉末天然調味料	432,433	—
植物エキス	165,113	—
液体天然調味料	170,037	—
粉末酒	28,688	—
その他	1,412	—
合計	1,324,870	—

(注)主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第1四半期累計期間		当第1四半期累計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
三菱商事ライフサイエンス(株)	138,271	10.0	161,272	12.2
風商事(株)	134,751	9.7	135,810	10.3
(株)伊藤園	257,489	18.6	117,971	8.9

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年3月期の期首から適用しており、当第1四半期累計期間に係る主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。